

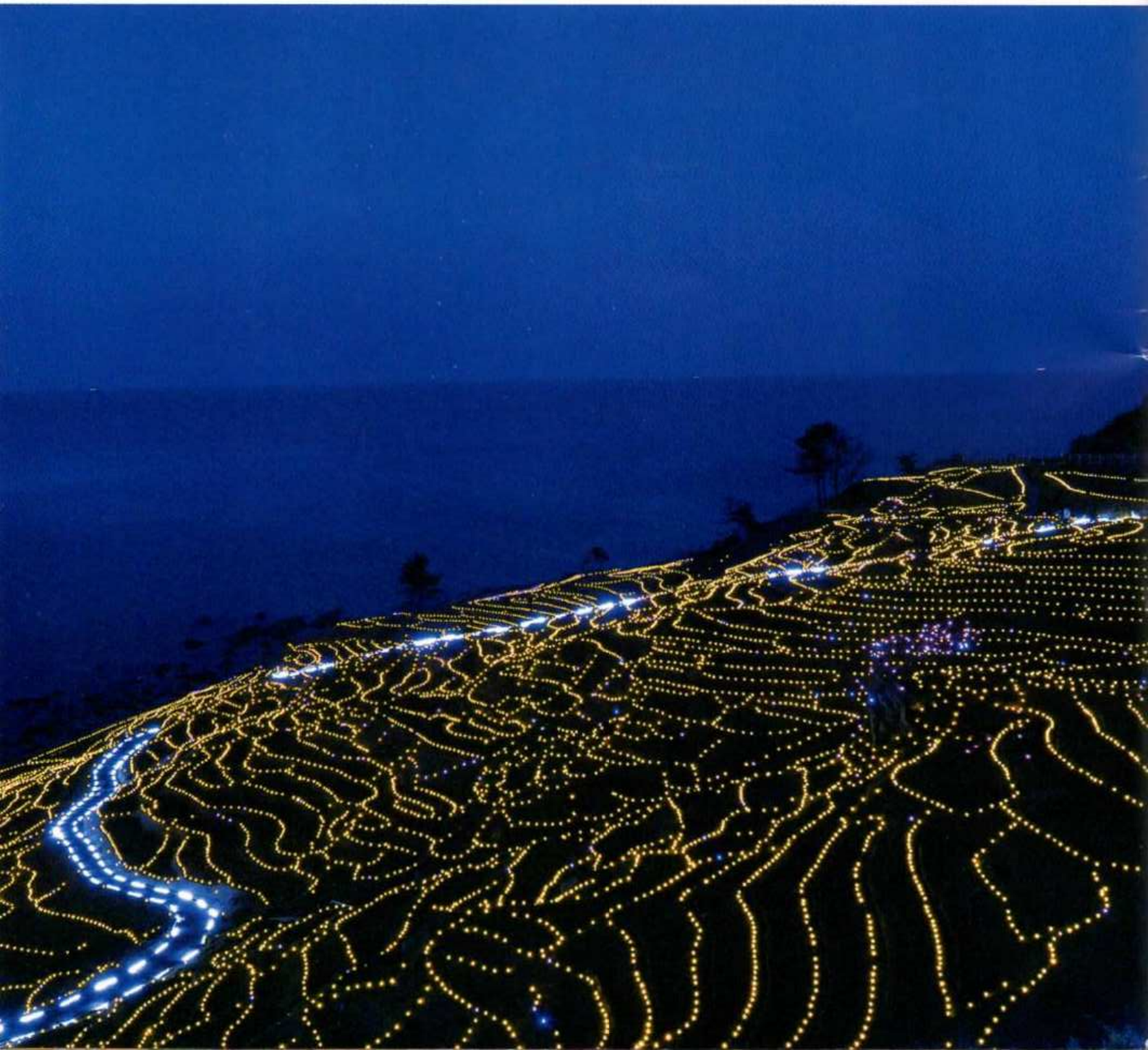
まむら

140

グラビア 村上の歴史と文化と技を味わう
—新潟県村上市 町屋の屏風まつり—村上町屋商人会—ほか

活動賞 平成29年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 発表
—内閣総理大臣賞 京都府木津川市 特定非営利活動法人 加茂女

論文 「都心回帰」と地域コミュニティ／実践的自治会町内会論



活動紹介

- 活動紹介① あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣総理大臣賞受賞
 竹を活かした町づくりを目指して……………京都府木津川市
 特定非営利活動法人加茂女……………6
- 活動紹介② あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣官房長官賞受賞
 子どもの声が聞こえるむらづくり……………京都府南丹市
 中世木区……………9
- 活動紹介③ あしたのまち・くらしづくり活動賞 総務大臣賞受賞
 農林水産業ビジネスの創出と地域づくり……………福井県福井市
 NPO法人農と地域のふれあいネットワーク……………12
- 活動紹介④
 自治会×若者の多世代交流……………東京都青梅市
 「成木地区大盆踊り大会」……………ゆめなりき……………16
- 活動紹介⑤
 地域住民による里山保全と八郎湖の
 環境再生活動……………秋田県湯上市
 NPO法人草木谷を守る会……………19

グラビア

- 村上の歴史と文化と技を味わう……………新潟県村上市
 町屋の屏風まつり—村上町屋商人会……………表2
- 本郷書生生活……………東京都文京区
 一都心の空き部屋を活用した若者支援……………NPO法人街ing本郷……………25
- 水環境を守る市民活動30余年……………千葉県柏市
 NPO法人せっけんの街……………29
- 困ったときはお互いさまのまちづくり……………高知県津野町
 地域の応援隊 和……………53

平成29年度あしたのまち・くらしづくり活動賞

- あしたのまち・くらしづくり活動賞 発表……………33
- あしたのまち・くらしづくり活動賞 審査講評 審査委員長 玉野 和志……………37
- あしたのまち・くらしづくり活動賞 振興奨励賞受賞団体の活動について……………40

論文

- 論文 (第3回)
 「都心回帰」と地域コミュニティ……………同志社大学社会学部教授
 大都市都心のマンション住民の近隣交際の現状……………鮎坂 学……………43
- 実践的自治会町内会論 (第3回)……………埼玉県上尾市尾山台団地自治会会長
 少子高齢化の中でのコミュニティづくり (3)……………尾上 道雄……………47
-
- 自治会町内会講座案内 (平成30年1月24日開催)……………23
- ふるさとの情景／編集後記……………52

平成29年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞
総務大臣賞受賞

農林水産業ビジネスの創出と 地域づくり

福井県福井市

NPO法人農と地域のふれあいネットワーク

NPO法人農と地域のふれあいネットワーク 理事長 多田 憲市



平成21年、当法人の農業体験を行うふるさとワークステイで、福井県を訪れた東京都の長野泰昌さんは、初めて触れ合った障がい者が精力的に梨の木せん定作業に励む様子が衝撃を受け、彼らに対し偏見を持っていたことに対して「恥ずかしかった」と話している。帰京後、「何かプレゼントできないか」と考え、梨園で記念に撮った写真を見ていたら、歌詞やメロディーがあふれるように浮かんできたという。DVDとCDを作製し、ワークステイ受け入れ先であった知的障がい者施設ピアファームに贈った。

タイトルは「夢の果実〜So Sweet〜」。作詞、作曲に加えてボーカルも長野さんが担当し自費で作製した。「ゆっくりとゆっくりとみんな育てていこう…」「想いと希望をつめこんで…」「心つなぐあまい夢の果実」という歌詞には大変な仕事を地道にこなす障がい者への思いを凝縮している。

いを大切にしたいものである。

農ネットの設立の経緯

平成16年6月福井県農林水産部の技術者OBが中心となり、「NPO法人農と地域のふれあいネットワーク」を設立した。現在会員は40名、理事5名、常勤者は理事長（1名）で、理事会は月1回開催され、各事業別に会員が担当することを原則としている。法人の理念は、地域における農林水産業と消費者・地域資源との結びつきを深め、新しいコミュニティビジネスの創出を図るとともに、農林水産業が地域にとって、かけがえのない

い財産であることを普及することである。

主な活動内容

① 梨の木オーナー・梅の木オーナー・

田んぼのオーナー体験事業

(育てる楽しさ・収穫の喜び)

平成17年度から開始した坂井市三国町池上地区における「梨の木オーナー体験事業」および平成19年度より開始した若狭町西田地区の「梅の木オーナー体験事業」、平成23年度からは「田んぼのオーナー体験事業」を越前町上糸生地区で実施し、農業を軸とした活力ある地域づくりを目指している。

「梨の木オーナー体験事業」が始まったきっかけは、ある梨農家の方から、家庭の事情で続けることが困難になったとの相談を受けたことであった。

広い梨園を一人で続けることは困難であり、その解決策として梨園の半分は所有者が管理し、残りの半分はオーナー制にすることが提案された。

当初オーナー制にすることに地元周辺農家からの反対があった。オーナー制の導入にともなって、地元住民以外の外部

者が出入りすることにより、周辺梨園の治安とマナーの問題を危惧した声であった。しかし、予想に反してオーナーたちのマナーが良いことに周辺農家たちも感心し、オーナー制度が受け入れられ、今では事業として定着している。

オーナーが作業に責任をもつことで木を大切に扱い、農業の素晴らしさや難しさを知り、自然と環境を考える良いきっかけづくりになっている。

また、梨、梅、米は、その地域の基幹作物であり、オーナー制の事業により、

農家が一定の収入を得られることは大変意義があると考えている。農家と消費者である市民との交流が新たな農業体験ビジネスになっている。

② 農林水産業の多面的機能を活かした

体験学習・教育支援

「ふるさと学級」(ふくいの魅力・再発見) 福井県には全国や世界に誇れる資源がある。身近な所で私たちが気づいていないものがたくさんある。福井の生活と家族、文化と歴史、食と産業について様々な視点から専門的な解説者と交流しながら、「心の原風景というべき場所を訪れ」福井の豊かな里地・里山・里海の再認識することを原則として開催している。

当法人では、このような地域の資源を活用した「ふるさと学級」を平成17年度から実施し、今年で12年目になる。

平成28年度では六呂師高原学級、里地学級、里山学級、山村学級、漁村学級、里山田んぼ学級、森の学級を福井県一円で23回実施し、558人が参加している。

平成27年度の「ふるさと学級」では、詩人の広部英一氏の生まれた福井市清水地区では「ふるさとの自然から文学を訪ねる」を実施し、福井県ふるさと文学館



梨の木オーナー 収穫講習会

の協力のもと、清水西公民館と共催事業として、山岳エッセイストの増永迪男氏の解説で4回実施することができた。平成28年度は「越前の風土に生きた詩人 福井の文学界の先駆者 則武三雄を語り継ぐ」が、則武三雄（のりたけかずお）が34年過ごした福井市円山地区で、福井市円山公民館、福井県ふるさと文学館に加え福井県詩人懇談会、福井県ふるさと詩人クラブ共催のもと「北荘文庫」ゆかりの作家を交えながら4回開催され、延べ200人を超える参加者があった。平



ふるさと学級—田んぼ学級で稲刈り

成29年度も6月18日には、現代詩作家「荒川洋治」が語る「則武三雄の詩と世界」が開催された。今年度はあと3回の企画が用意されている。地域の自然から文学を訪ねることができ、地域の学校の校歌に関わる作家は多い、大東中学校は則武三雄が作詞している。このように、文学から地域の再発見ができ、地域の多くの人々が地域の再発見につながったと考えている。

③ふるさとワークステイ

（田舎暮らしを宿泊体験・福井県の

田舎でボランティア）

福井県の農山漁村に滞在し、農作業、地域づくりのお手伝いなどを体験する。滞在期間は1泊〜3泊程度で、長期滞在などの研修等については別のプログラムを用意している。平成28年度は年間68人の利用があった。

④地域づくり大会の開催と全国会議・

研修会への参加

当法人は福井県で開催された大きな全国大会では、平成24年11月に開催された「第11回全国グリーンツーリズム福井大会」越廼地区（越前海岸）。平成25年11



ふるさと学級—漁村学級で魚さばき

月に開催された「第31回地域づくり団体交流研修大会福井大会」では朝倉・東郷地区、福井まちなか片町・呉服店地区、越前海岸地区、3地区のコーディネートとなり、福井の豊かな里地・里山・里海の自然、生活と家族、食と文化、歴史と産業について、全国からの参加者と交流し、福井の未来を語り合った。

全国の各地で開催される地域づくりの研修会、東南アジアの研修会にも会員が参加している。

福井県で最大の梨の産地である坂井北部丘陵地帯では梨が、また若狭地区では梅が、南越前町特産のつるし柿の生産が、農家の人手不足、高齢化などの理由で窮地に追い込まれている。グリーンツーリズムとふるさとワークステイとの連携も視野に入れながら地元のみ農林総合事務所や農協、梨組合、農家の協力を得ながら今後も継続していきたい。

農業実習のリーダーも少しずつ現れ

NPO法人の課題と今後の展望



ふるさと学級 里地学級で則武三雄を語り継ぐ



田んぼ体験

始めているが、就農希望者や移住希望者に対する行政の役割、農家の役割、NPO法人の役割をもっと明確にして、農地の貸し出し、農地の購入等に積極的に対応すべきであり、いきなり大農業的発想ではなく、家族的小農的発想から定年退職者対象の農園群の建設があってもいいと考えられる。まずは、地域住民と交流しながら、その市町の公共施設（宿泊施設、体育館、図書館、博物館、美術館など）も利用しながら、福井の春・夏・秋・冬の体験を通して、その地域に似合った地

域づくりとして、農林水産物の直売・直販など多様な流通の組織形態にも対応できるように続けていけるようにすべきである。

当法人が3年前から継続している、地域ゆかりの作家とその文学を訪ねる事業は、県ふるさと文学館や地元の公民館の協力のもと、福井市、坂井市、越前市、南越前町に広がり、越前和紙と書・絵画、音楽へとしだいに広がりつつある。

団体と団体との協力開催から、企業・行政が加わりコラボレーション（共同・協力）による多彩で継続的な事業へと発展していくことが可能であると考えられる。

このようにNPO法人しかできない地域課題のコーディネートはたくさんある。円滑に事業を進めるための潤滑油となることができるのではないかと考えている。街に住む人と里地・里山・里海に住む人との交流による「心の豊かさ」を求める傾向はますます強くなってきていると考えられる。

農林水産業の単なる体験でなく、時代の背景や産業の変遷を知り、触れて、見て、味わい、考え、心に感じる事業を展開したい。

平成29年度

あしたのまち・くらしづくり活動賞発表

のまち・くらしづくり活動賞 表彰式



内閣総理大臣賞授与 内閣府 難波康修管理室長

平成29年度あしたのまち・くらしづくり活動賞



主催者挨拶 (公財)あしたの日本を創る協会 榊誠理事長

あしたのまち・くらしづくり活動賞 表彰式



交流のつどい挨拶 読売新聞東京本社 中川俊哉取締役

平成29年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 表彰式



総務大臣賞授与 総務省 飛田章地域振興室長

・子どもの声が聞こえるむらづくり
京都府 中世木区

内閣官房長官賞

・竹を活かした町づくりを目指して
京都府 特定非営利活動法人加茂女

内閣総理大臣賞

内閣総理大臣賞、内閣官房長官賞、総務大臣賞の受賞団体の活動をP6～P15で紹介しています。また、玉野和志審査委員長(首都大学東京教授)の入賞団体の審査講評はP37～P39、振興奨励賞の活動概要はP40～P42をご覧ください。

平成29年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」(主催・公益財団法人あしたの日本を創る協会、NHK、読売新聞東京本社)が次の通り決定しました。表彰式は、11月3日、東京都北区の北とびあで行われました。表彰式には17の受賞団体が出席。その後は交流のつどいで交流の輪を広げました。

内閣総理大臣賞



特定非営利活動法人加茂女
(京都府)

内閣官房長官賞



中世木区 (京都府)

総務大臣賞



特定非営利活動法人農と地域の
ふれあいネットワーク (福井県)

主催者賞



特定非営利活動法人くちない
(岩手県)



箱の浦自治会まちづくり協議会
(大阪府)



PINECoNeS LLP
(広島県)

主催者賞

・農林水産業ビジネスの創出と地域づくり
福井県 特定非営利活動法人農と地域の
ふれあいネットワーク

総務大臣賞

・地域のために何が出来るか常に考えて
岩手県 特定非営利活動法人くちない

・箱の浦のことは、箱の浦で解決する
大阪府 箱の浦自治会まちづくり協議会

・自然体でまちづくり「まちあそび」
広島県 PINECoNeS LLP

・地域の皆で地域の子どもを育てる子育て
支援

福岡県 特定非営利活動法人チャイルド
ケアセンター

・安心して3世代が暮らせる笑顔あふれる
塩見

宮崎県 塩見まちづくり協議会

あしたのまち・くらしづくり活動賞

中央審査委員会委員長 玉野 和志

(首都大学東京教授)

公益財団法人あしたの日本を創る協会
は、1958年からまちづくり・くらし
づくりの活動を顕彰する事業を行ってき
ました。その間、いくどかその名称や内
容については変遷がありました。現在の
「あしたのまち・くらしづくり活動賞」
となったのは2006年度からです。毎
年、読売新聞、NHK、後援団体、都道
府県協議会、NPO・市民活動支援セン
ターなどにご協力をいただき、募集の呼
びかけを行い、今年度については218
団体の応募を得ることができました。こ
のうち書類審査と中央審査委員会での協
議をへて、内閣総理大臣賞、内閣官房長
官賞、総務大臣賞がそれぞれ1団体、主
催者賞が5団体、計8団体が入賞団体と
して選出されました。ここでは、中央審
査委員会での協議に基づいた審査結果を
取りまとめ、講評いたします。

内閣総理大臣賞は、京都府木津川市
の「特定非営利活動法人加茂女」が受賞

内閣総理大臣賞 (1 団体)



京都府木津川市 特定非営利活動法人加茂女

しました。加茂女は、35年前に加茂町
(現・木津川市)の南の端に新しくでき
たニュータウン(南加茂台)に引っ越し
てきた女性たちが集まって、子育ての悩
みを相談したり、生活の知恵を教え合う
サークルとして発足しました。地場産業

だった竹や筍の需要が減少し、荒れた竹
林にゴミが不法投棄されたために、産業
廃棄物の埋め立て地ができてしまったと
いう苦い経験から、自分たちで竹林整備
をしてみようと考え、竹を切り、工芸品
なども手がけましたが、らちがあかず、
そこで「竹を食べて減らそう」と竹や筍
の食品開発に取り組みました。この活動
が現在では法人格を取得し、食品部門で
人を雇用するまでになっています。女性
たちが地域の資源を活かし、いわば地場
産業をそれまでとは違うかたちで復活さ
せることで、まちづくりを採算の取れる
事業にまで発展させた点が、高く評価さ
れました。

内閣官房長官賞は、京都府南丹市の
「中世木区」が受賞しました。南丹市日
吉町中世木区は急速に高齢化が進行し、
65歳以上が49%と限界集落直前の状態
でした。あきらめと閉塞感が漂うなか、
2012年に新しく就任した区長が中心
になって「子どもの声が聞こえる村づく
り」に取り組みたいと考え、未耕作地の
棚田を棚に見立て、お雛さんを飾る「棚
田ひな祭り」を実施しました。都市住民
など区外から人を集め、同時に婚活も実
施し、集落の独身男性にカップルも誕生

内閣官房長官賞 (1 団体)



京都府南丹市 中世木区

しました。これをきっかけに「集落のいとこ探し」に取り組み、「柵田ひな祭り」も3年目には都会に出ている子どもたちも帰省して応援する集落全体が楽しむお祭りに発展し、閉鎖的だった山村の集落もオープンな雰囲気になりました。昨年には集落の空き家に3組の若い家族が移住し、5人の子どもが集落に加わることになりました。地域の魅力を再発見し、活性化を進め、実際に移住者を獲得している点が評価されました。

総務大臣賞 (1 団体)



福井県福井市 特定非営利活動法人農と地域のふれあいネットワーク

総務大臣賞は、福井県福井市「特定非営利活動法人農と地域のふれあいネットワーク」が受賞しました。この法人は地域における農林水産業と消費者や地域資源との結びつきを深め、新しいコミュニティビジネスの創出を図るとともに、農林水産業が地域にとってかけがえのない財産であることを普及することを目的としています。このため世話ができなくなった梨園の一部をオーナー制で外部の人に任せる「梨の木オーナー体験事業」、

農林水産業の多面性を活かした体験学習「ふるさと学級」、田舎暮らしを宿泊体験する「ふるさとワークステイ」などの事業を編み出し、農家と消費者である市民との交流を図り、農業維持と地域の魅力再発見を通じて、人口増加や就労などのきっかけになる取り組みを行っている点が、高い評価を得ました。

主催者賞は、岩手県北上市「特定非営利活動法人くちない」、大阪府阪南市「箱の浦自治会まちづくり協議会」、広島県大竹市「PiNE CoNeS LLP」、福岡県大野城市「特定非営利活動法人チャイルドケアセンター」、宮崎県日向市「塩見まちづくり協議会」の5団体が受賞しました。これらの活動の中には、過疎化や高齢化によって高齢者の生活を支えるのが困難になってきた地域で、高齢者の足としての交通機関を確保したり、居場所や交流拠点をつくりだす活動が含まれていたり、カフェやエステ、デザインなどの仕事に携わる地域の女性が廃校の備品を販売するなどの地域のイベントをつくりだす活動を工夫したり、地域ぐるみで子育て支援を行い、世代間交流を図る活動など、現代の日本が抱えている地域社会のさまざまな問題に対処

審査講評

主催者賞 (5団体)



岩手県北上市 特定非営利活動法人くちない

する、いろいろな工夫が地域の人々自身によって考案され実践されていることがよくわかります。どの活動も、誰もが勇気づけられ、自分たちもやってみようと思わせるものになっています。

今回受賞をされた活動は以上の通りですが、審査の過程で接したレポートはすべて心打たれるものばかりで、大きな希望と勇気を与えてくれるものでした。世の中捨てたものじゃないと思わせてくれたすべての応募者に感謝の意を表して、講評を終えたいと思います。



大阪府阪南市 箱の浦自治会まちづくり協議会



広島県大竹市 PINE CoNeS LLP



福岡県大野城市 特定非営利活動法人チャイルドケアセンター



宮崎県日向市 塩見まちづくり協議会